



TOPIC
1

教養講演会を3回開催～教養って面白い！

昨年度に引き続き、今年度も3回にわたり教養講演会を開催しました。大学では、自分の専門分野を学ぶことはもちろんですが、専門以外の分野についても広く知ることができます。いわゆる「教養」は、単に知識を広めるだけではなく、みなさんのものの見方や考え方も変えてくれるものです。教養講演会は、そんな教養のエッセンスが1時間半にギュッと詰まっています。

第4回教養講演会 トマス・グラムリヒ「異文化理解と異文化対応能力」 Thomas Gramlich

2017年11月6日(月) 16:30～18:00 コモンズ教室

第4回目は、ドイツから講師をお迎えし、文化とは何か、文化の異なりはどのように現れるのか、そして異文化に対応する能力について語っていただきました。例えば、対面した時の距離の取り方は、実は文化によって異なり、ドイツ人は日本人に比べ近い位置に立とうとします。その時、日本人は圧迫感を感じ、逆にドイツ人は日本人が離れていることによそよそしさを感じます。こうした状況をはじめ、文化によってコミュニケーションが相違する可能性やその対処法について、様々な考えることができました。



第5回教養講演会 野村誠「僕の教養は全て音楽を通して身に付けた！」

2017年12月13日(水) 13:30～15:00 1D教室

「専門以外の分野を教養として身に付ける」という一般的な大学での教養教育とは、相対するタイトルでの講演でした。作曲家である野村誠氏は、曲作りのため必要に迫られてそれまで知らなかったことを知り、より良い作品のためにさらに人に会ったり文献を調べたりする中で、また新たな出会いや事実と遭遇したそうです。そうした中で、結果的に「教養」といわれるものが身に付いたことを、具体的な例を挙げて話していただきました。鍵盤ハーモニカでの「おもしろ演奏」に加え、世界各地での様々な体験談は、大変興味深いものでした。

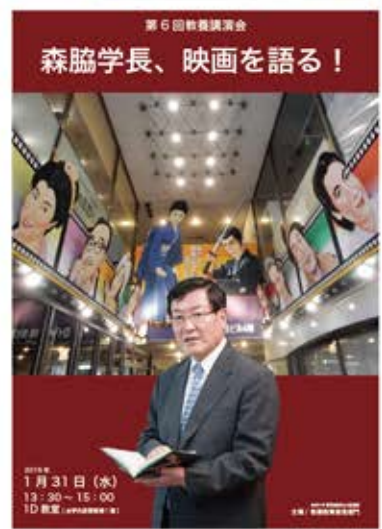


第6回教養講演会 森脇久隆「森脇学長、映画を語る！」

2018年1月31日(水) 13:30～15:00 1D教室

多忙な職務にありながら、年に20～30本は映画をご覧になる森脇学長が、映画との出会いから、映画館や映画評論家について、そしてアニメ映画まで硬軟織り交ぜてお話しくださいました。単に趣味としての映画の話にとどまらず、ディズニー映画『ダンボ』からアメリカと日本の国力の差異を、さらにロボット工学の3原則まで取り上げられ、まさに「教養」とは何かを考えざるを得ない、刺激的な時間となりました。一方で、附属病院でロケが行われた映画の裏話も飛び出し、会場は穏やかな笑いに包まれました。

この教養講演会には、来年度も森脇学長にご登場をお願いする予定です。みなさん、ぜひ森脇学長の教養談義にご期待下さい。



- 第4回 野村幸弘（教育学部）「芸術がわかる、ってどういうこと？」2017年1月6日
- 第5回 橋本永貢子（地域科学部）「そのウソって許されるの？」2017年4月21日
- 第6回 須藤広志（工学部）「科学衛星ミッションについて考えよう」2017年5月19日
- 第7回 正木 寛（全学共通教育事務室）「昔の岐大って知ってる？」2017年6月16日
- 第8回 川瀬真弓（工学部）「デザイン思考のすすめ」2017年7月21日
- 第9回 額綱守（工学部）「化学の基礎知識を理解して賢い日常生活を送ろう」2017年10月27日
- 第10回 松林康博（地域協学センター）「NPO法人で働いてどうということ？」2017年11月17日
- 第11回 矢部富雄（応用生物科学部）「炭水化物（糖質）は体に悪いのか？」2017年12月15日
- 第12回 桑田一夫（医学部）「病気を治す方法を開発しよう」2018年1月19日



ゼミ後に額綱教授を囲んでの懇親会

【高年次教養セミナー】上記の1年にわたる「Party ゼミ」の実績をもとに、平成30年度から全学共通教育（教養科目）の「複合領域」の中に「高年次教養セミナー」を新設することができました。就職活動、留学、インターンシップ、ボランティアなど学外での活動を経験した学生が、自らの教養を今一度振り返り、さらに深めていくことを授業の目的としています。3・4年生の履修を優先し、コーディネーターは、教養教育推進部門長の野村幸弘、前期に、矢部富雄、横川隆志、菊地聡、尹己烈、山口未花子の各教員、後期に、デイビッド・パーカー、堀田亮、林正子、佐々木実、小山真紀の各教員に講師を務めていただきます。教室は、サテライトキャンパスで、金曜日の17:30～19:30に5回、開講されます。みなさん、ふるって受講して下さい！

TOPIC
4

英語教育に関するFD研究会を開催しました

「全共英語、なぜ私はすべての学生にSをつけるのか？」 —実践報告その2—

2017年10月11日（水）14:00～16:00 コモンズ教室

平成29年度第2回FD研究会を学修支援部門との共催で開催しました。講師は、言語学がご専門の牧秀樹氏（地域科学部教授）です。演題は、「全共英語、なぜ私はすべての学生にSをつけるのか？ —実践報告その2—」で、「全共英語の授業実践と成績評価について」と「岐阜大学英語教育の将来ビジョン私案」について、先生の実際の講義で実践されている、非常に学生さんの興味を引きつける音楽や動画を入れながらご紹介いただきました。

刺激的な演題でしたが、参加者アンケートから、「英語でのプレゼン発表などとても勉強になる講義であった。（牧先生の講義を実際に受講した学生さんからの意見）」「準備1000%というのは当たり前かもしれないけれどもとても重要」などの意見がありました。

とにかく手間がかかりますが、完璧な準備をしたら、後は適度な指導をしながら学生さんの自主性に任せる教授法は、ひとつの手本となる手法であり、英語の講義以外の専門の講義などでも常に英語に触れる環境を整備することで、自然に英語が身につくことなど、岐阜大学の英語レベル向上に向けたいくつかのアイデアを共有することができました。



機妙なトークを繰り広げる牧教授



講演後のパネル・ディスカッションの様子

「教養図書コーナー」の新書を濫読しよう！

図書館3階の東側に「教養図書コーナー」があるのをご存じでしょうか？ この書棚は、学生の皆さんに幅広い教養を身に付けて欲しいとの願いを込めて、2年前から整備しているものです。あらゆる分野の知識について視野を広げるためには、コンパクトな新書や文庫が最適であると考えています。今年度は、この教養図書コーナーに新書と文庫の他、定番の古典を親しみやすくしたマンガや最新のテクノロジーを図解入りで分かりやすく解説した本など900冊近くを新たに購入。大幅なグレードアップを実現しました。とりわけ新書については、ちくま新書や中公新書といった有名どころの最新刊をたくさん揃えました。「マンガで読破」シリーズ、「1冊でわかる」シリーズ、「絵でわかる」シリーズなどを取り揃え、すべての学生が一人一冊借り出しても大丈夫な冊数を準備しています。ぜひ一度このコーナーに足を運んで、手に取って頂きたいと願っています。

利用者からのコメント



「シリーズ本」がたくさん並ぶ書棚



「マンガで読破」シリーズ。おススメです！



「教養図書コーナー」のために購入された本です

年々、充実する「教養図書コーナー」
岐阜大学図書館の3階にあります

「教養図書コーナー」にある「マンガで読破」シリーズは定番の古典のマンガ本がいっぱい。昔読んだ本や昔読みたかった本でも内容を忘れてしまったり、気になっていたけれど読む時間がなくて読んでいない本がいっぱいあります。夏目漱石の「それから」「こころ」、芥川龍之介「羅生門」、清少納言「枕草子」、トルストイ「戦争と平和」、ゲーテ「若きウエルテルの悩み」など127冊。こんな大量な本をオリジナル本で読んだらとっても時間が確保できませんが、このシリーズなら1時間でほぼ1冊読めてしまいます。おおよその内容は網羅されているので「教養」を深めるには実に効率的です。私は、最近貸し出し冊数の最大数（教員7冊、学生5冊まで可）まで借りて、1週間で自分が読んだ後、家族で回し読みし、次の1週間で別の本を借りて読破しています。実に楽しい時間を過ごすことができます。面白かった本は、オリジナル本にもチャレンジしています。

【経緯】教養教育推進部門と学生有志の団体 eplus は、専門分野外の学問について知り、教養を深める「Party ゼミ」を平成28年度秋からサテライト・キャンパスで金曜夜に開催しています。これは学部の枠を超えて、学生同士、あるいは教職員と学生が、一つのテーマについて学び、意見交換をし、議論を深めていくことを目的としています。互いに異なる経歴、背景、興味、関心を持った学生が率直に意見交換できる雰囲気は、参加学生からも教職員からも好評で、平成29年度の活性化経費（教育）に採択され、更なる充実を図ってきました。そして、平成30年度からは、「高年次教養セミナー」という正規の授業科目として開講することになりました。

【Party ゼミ】「Party ゼミ」は、以下の通り、これまで12回開かれ、さまざまな学部の異なる専門分野の先生方が講師となり、学生たちと熱心な議論が交わされました。

第1回 廣内大輔（教育推進・学生支援機構）「大学について語ろう」2016年10月14日

第2回 櫻田 修（工学部）「大学の環境への取り組みから考えてみよう」2016年11月11日

第3回 前澤重禮（応用生物科学部）「岐阜の食を楽しもう」2016年12月9日



サテライトキャンパスでレクチャーする松林助教

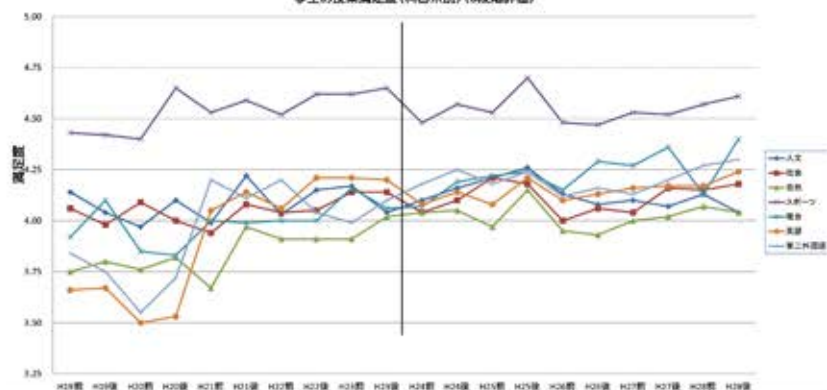


ゼミ後に松林助教を囲んでの懇親会

毎学期行っている「学生による授業評価アンケート」は、授業の改善と質向上のために実施されています。これまでは、授業の内容、レベル、運営の仕方などいくつかの項目に分けて評価を求めてきました。アンケートを始めた10年前に比べ、全体的に学生からの評価が上がっていることから、授業改善に一定の効果があったことが窺えます（下図参照）。

右のアンケート用紙を見てもらえれば分かるように、今年度は、更なる質向上のため、相対的評価は授業への満足度のみとし、それ以外は良かった点、改善すべき点を自由に記述してもらうことにしました。学生の皆さんのご協力のおかげで多くの声が寄せられ、教員にとって励みに、また反省の材料になりました。

学生の授業満足度(科目別)(5段階評価)



過去10年間の学生の授業満足度の推移(中央の縦線から新カリキュラムに移行)

『学生による授業評価』アンケート用紙

※学内での配布・回収 / 匿名 / 無償 / 岐阜大学教養教育推進部・学生支援機構

このアンケートは、全学共通教養の授業をより良いものにするために行います。皆さんのご意見・意見を貴重に受け取り、今後の授業をさらに改善してまいりますので、具体的な建設的なコメントを記入してください。

授業科目名: ※科目名(授業名) ※

教員ID: (←科目ID=) 分野a: (←分野1=) 分野b: (←分野2=)

(←単位特異+) 科目コード: (←科目コード=)

※記入する番号の上に記入してください。

1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5

1) 総合的に見て、この授業は良かったですが、次の5種類のうち最も適切な数字を、記入してください。

5. 全くそう思う
4. ややそう思う
3. 普通
2. あまりそう思わない
1. 全くそう思わない

2) この授業の内容や方法などについて、こうすればもっと良くなると思うことを書いてください。特に、1) で1もしくは2票選んだ人は、必ず記入してください。

3) この授業の良かった点について書いてください。

※授業科目別から別添録票項目が提供された場合は、票の欄外に1) 4) 以降の欄へ、該当する5段階評価の数字を記入してください。なお、特に指示のない場合は、1) 3) までの設問で終わります。

※受付期間: 平成29年 3月 7日 (日)
※印刷部数: 個人用200部 / 分科会用100部 / 合計300部

ご協力ありがとうございました。

平成29年5月25・26日の2日間にわたって富山市のホテルグランテラス富山で開催された第54回国立大学教養教育実施組織会議に参加しました。この会合は文字通り国立大学の教養教育を担う部署の教職員が一堂に会し、それぞれの大学の取組や課題について情報交換を行うイベントであり半世紀以上の歴史があります。岐阜大学は今年度この会合において大活躍しました。

具体的には、基調講演に相当する全体発表を、船越高樹特任助教(教育推進・学生支援機構〔サポート・ルーム〕)が担当しました。「コミュニケーションを苦手とする学生への修学指導と成績評価」と題したその講演は、昨今の教養教育の在り方を考えるうえでとても重要なトピックであり、多くの聴衆を惹きつけることに成功しました。

また、第一分科会の議題には本学が提案した「同一名称で複数コマ開講する科目における公平な成績判定」が採択され、廣内大輔准教授(教育推進・学生支援機構)が座長を務めました。



分科会で座長を務める廣内准教授

教養教育
NEWS
スタッフ

教養教育推進部門 (2018年2月現在)
 部門長 野村幸弘 専門分野 美術史学
 副部門長 綱嶺 守 専門分野 化学
 副部門長 橋本永貞子 専門分野 言語学
 学修支援部門 (2018年2月現在)
 副部門長 廣内大輔 専門分野 高等教育論



岐阜大学 教育推進・学生支援機構 教養教育推進部門
 〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
 TEL.058-293-2169
 email gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp